

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	ユアサM&B株式会社
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>多様なサービスメニューができ、利用するユーザーが求めれば、自ずとサービス提供エリアが広まっていくと考える。</p> <p>先に多額の設備投資等による基盤整備を考えるより、多様なサービス提供させるよう促すことが求められる。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>企業は、日々、熾烈な企業間競争にさらされ、経営の効率化を図りつつ、新たな製品やサービス開発を行いながらの事業推進が必要で、ICT分野のブロードバンド環境の最大限活用は欠かせない。ブロードバンド環境の導入時には、回線とサービス、その運用保守体制も含め、一体的なものと判断し、特に光やメタルという回線の種別や価格のみで判断することはしない。ブロードバンドを利用する企業の立場から、第一に重要なことは、企業経営を進める上で迅速な意思決定や生産性の向上、円滑なコミュニケーションにつながるようなサービスが提供されることであり、新たな良好なサービスが利用できるよくなればこの上ない。料金の低廉化と、同時に使いたい、役に立つと思えるような多くの魅力的なサービスがどうすれば生まれるのかをまずしっかりと考えていただきたいと思う。そのことにより自ずと利用率は向上する。使いみちのないものをいくら値下げされても、利用しようと思わないのは当然である。</p> <p>我々は常日頃より、NTTなどの通信会社や電力会社、CATV会社から光回線などのブロードバンドに関する提案を種々受けている。提案内容もバリエーションに富んでおり、選択肢も多々あることから、競争が不十分で、我々利用者が不利益を被っているとは思わない。すでに日本の超高速ブロードバンドは、世界的に見ても速度や料金は最高水準であると思っている。今回NTTのアクセス網部分のみを分社し、公社化するという話があるようだが、すでに民間事業者同士がインフラ、サービスの両面で競っている環境を壊すことになりかねず、逆に独占的なインフラ会社が誕生することにより、競争原理が働かなくなり、サービス開発投資へのインセンティブが働かず、提供されるサービスレベルが低下することを危惧する。</p>

	<p>当社では、平成6年11月の会社設立以来、エネルギー分野をコアに、環境分野や高齢社会対応分野に事業展開していくよう取り組んで来ているが、ICTとの関連性は高く、医療や教育などの分野でのICT活用融合範囲は広い。国には、他の産業との連携や相乗効果を意識し、如何にすれば企業や個人などの利用者に役立ち、国民生活が豊かになるサービスが創造されるかという視点で、競争政策を展開していただきたい。そうすれば自ずと超高速ブロードバンドの利用が進むと考える。</p>
--	--